

《東和地域》再編統合校舎選定に係る相対評価表

評価項目\学校名	米谷小学校	錦織小学校	米川小学校	東和中学校	目安となる数値
1 校舎の広さ	2,634㎡	1,769㎡	2,350㎡	5,492㎡	最低限必要とする面積 1,460㎡
2 体育館の広さ	902㎡	779㎡	780㎡	1,577㎡	
3 運動場(校庭)の広さ	10,864㎡	2,596㎡	7,165㎡	23,996㎡	最低限必要とする面積 2,400㎡
4 敷地の広さ	21,741㎡	13,916㎡	16,930㎡	64,683㎡	
5 施設経過年数	46年2ヵ月	28年2ヵ月	48年2ヵ月	44年2ヵ月	耐用年数65年
6 耐震補強実施年 (校舎部分)	平成20年	なし	平成11年	平成9年	
7 教室数	11教室	6教室	9教室	16教室※	統合後の学級数 9クラス+特別支援 ※9クラス+5クラス+小中特支
8 通学距離(最長)	宮城県登米市東和町 米川大綱木44-2 約16km	宮城県登米市東和町 米川大綱木44-2 約14km	宮城県登米市東和町 錦織68-1 約14km	宮城県登米市東和町 米川大綱木44-2 約10km	
9 避難所の機能	避難所3	避難所1	避難所4	避難所1	
10 駐車場の状況	55台	20台	10台	50台	学校敷地内のみ
11 埋蔵文化財の範囲	あり(隣接)	なし	あり	なし	
12 周辺施設(1km圏内)の距離					
児童クラブ	米谷児童活動センター 同一敷地内	錦織ふれあいセンター 6m	なし	なし	
公民館	米谷公民館 550m	錦織公民館 1000m	米川公民館 600m	なし	
保育所	米谷こども園 同一敷地内	錦織保育園 450m	米川聖マリア保育園 550m	なし	
幼稚園	なし	なし	なし	なし	
病院等	米谷病院 800m	なし	米川診療所 800m	なし	
その他	-	-	-	-	

相対評価表の評価の視点について

資料2

評価項目	評価の視点
1 校舎の広さ	校舎の面積が小学校設置基準で定める基準を越えているか。 ※ 1
2 体育館の広さ	統合後の学級数に対しての受け入れ可能性
3 運動場(校庭)の広さ	運動場の面積が小学校設置基準で定める基準を越えているか。 ※ 2
4 敷地の広さ	統合により校舎等の増築が必要となった際の拡張性
5 施設経過年数	残耐用年数が何年残っているか。 ※ 3
6 耐震補強実施年	耐震補強の実施状況
7 教室数	統合後の学級数に対しての受け入れ可能性
8 通学距離(最長)	市の適正配置についての基本的な考え方に合致するか。 ※ 4
9 避難所の機能	ハザードマップからの立地条件 ※ 5
10 駐車場の状況	駐車場の整備状況
11 埋蔵文化財の範囲	校舎、校舎周辺が埋蔵文化財の指定区域に含まれるか。 ※ 6
12 周辺施設の距離	放課後児童クラブの実施場所等関係施設との距離

【備考】

※ 1 校舎の面積の基準

児童数	面積 (㎡)
1人以上 40人以下	500
41人以上 480人以下	$500 + 5 \times (\text{児童数} - 40)$
480人以上	$2,700 + 3 \times (\text{児童数} - 480)$

※ 2 運動場の面積の基準

児童数	面積 (㎡)
1人以上 240人以下	2,400
241人以上 720人以下	$2,400 + 10 \times (\text{児童数} - 240)$
721人以上	7,200

※ 3 日本建築学会で示しているRC造、SRC造の望ましい目標耐用年数 65年

※ 4 市の適正配置の基準 スクールバスを活用した際の通学時間が概ね1時間以内

※ 5 ハザードマップにおける避難所機能

- 避難所 1 洪水時に避難する避難所
- 避難所 2 洪水時に床下浸水するが避難可能な避難所
- 避難所 3 洪水時に浸水するが2階以上に避難可能な避難所
- 避難所 4 洪水時に浸水する又は土砂災害の危険があるため地震時のみ避難可能な避難所

※ 6 埋蔵文化財を包蔵する土地で土木工事等を行う際は、届出等の手続が必要となり工事の進捗に影響を与える可能性がある。